所蔵作品展「動物集合」

Animals, Animals, Animals, From the Museum Collection

2017年2月28日(火) ～ 5月21日(日)

犬、猫、鳥から“珍獣”まで。工芸で表わされた動物、約120点！

広報用図版①「動物集合」展チラシ

　ツル、カメ、貝、トンボ、オシドリ、犬、タカ、虎、龍、鳳凰などなど、工芸には数え出したらきりがないほどの動物たちが登場し、時として、制作に欠かせない素材や道具にも用いられます。ツルカメは長寿、貝は豊穣、トンボは武運というように、モチーフとなる動物には、もともと願いや祈りがこめられてきました。その意味は時代によって変わることもありますが、根底にはいつでも自然界に生きる動物の形や習性があります。近代において作家は、動物のモチーフがそれまでにもっていたイメージによらない作品を制作するようになりました。素材と技法の特性を生かした造形に挑むなかで、卵殻の小さなかけらは柔らかな毛並みへ、たたいた金属の硬質な輝きはタカの勇猛さへと転じました。また作家と動物がより近しくなることで生まれた親しみのこめられた視線は見る人の共感を呼び起こします。作家たちが、さまざまな素材と技法で表現した、動物の生き生きとした姿をお楽しみください。

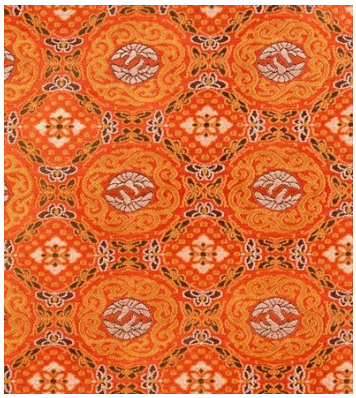
報道関係の方のお問合せ先	**東京国立近代美術館工芸館** 展覧会担当／成田　　広報担当／髙橋　　※工芸館広報のメールアドレスが新しくなりました。 Tel：03-3211-7781（工芸課直通）　E-mail：kogei-pr@momat.go.jp
掲載用お問合せ先	Tel：03-5777-8600（ハローダイヤル）
公式HP	http://www.momat.go.jp

展示構成

作品紹介　＝展示企画者による、みどころのご紹介です。（作品はすべて当館蔵）

●染織と動物

花鳥を織り込んだ伝統的な錦をはじめ、繰り返すパターンによってペンギンの群れを表わした中島直美のシルクスクリーン、天然染料の色の濃淡のみによって、動物そのものの姿ではなく生き物のいる情景を表わした志村ふくみの紬織など、染めと織りの技法特有の表現と調和した動物の作品を紹介します。



【参考図版】喜多川平朗《紅地鳥蝶唐花文錦》（部分）　1960年

●身近な動物

慣れやすい性格や、愛らしいしぐさによって人と家族のように親しんできた犬や猫、古来から家畜として、日本の農耕文化に欠かせない存在だった牛や馬、里山に生息していたキツネなど、人の生活の営みの中で共存してきた身近な動物も工芸の作品の中に多く登場します。立体としてその姿を表わしたものや、型絵染や色絵など、工芸の技法を用いた文様として表現された作品をご紹介します。

【参考図版】稲垣稔次郎《紙本型絵染額面　代かき》1961年頃

作品紹介　大塚茂吉はイタリアでテラコッタの技法を学び、エジプトを源流とする地中海文化にも大きな影響を受けました。細く穴のあいた目は、静かにこちらを見据えているようです。すらりとした長い手足で姿勢よく座る猫の全体は象嵌による点で埋め尽くされ、神秘的な雰囲気を際立たせています。

（左）広報用図版②　大塚茂吉《猫》2005年
（右）広報用図版③　田口善国《漆透かし絵　犬》1985年

●空想の動物

龍や獅子などの霊獣は、現代でも調度に施される文様として馴染みのあるものですが、「動物」として眺めると改めてそれが空想のものであると気づかされます。作られた時代や地域、作者の思想を反映して多様な姿を見せる珍獣や神獣などの作品をご紹介します。

作品紹介　辻清明は信楽の土を用いた焼き締めの技法で花器や茶碗などを制作する傍ら、動物や空き缶、帽子などの造形物を制作した陶芸家。ころころと転がりそうな丸い体に短い手足、線で簡単に毛並みと瞳が刻まれた珍獣の姿からは、厳しさだけではない辻のユーモラスな作風が見出せます。

広報用図版④　辻清明《信楽珍獣》2006年

●鳥

干支として親しまれた鶏や、吉祥のモチーフとして重用された鶴のほか、嘴の形や翼の軽やかさなど、「鳥」特有の姿を通じて、工芸素材と技法による表現の豊かさをご紹介します。

作品紹介　動物や植物、女性をモチーフとして、繊細で華やかなジュエリー、ガラス作品を制作したルネ・ラリック。本作では、厚手の青いガラス表面に、重なるように並ぶ鶏の姿が、溶かしたガラスを金型に押し付け表面に模様を付けるプレス成型により、立体的に表現されています。

作品紹介　松田権六は、図案日誌と称して一日一図案を課題にし、自然観察に基づいた図案と技法との調和をめざした漆芸家です。漆黒の空に舞う真っ白な鷺、その翼の白さ繊細さを際立たせるのは、卵の殻を使った「卵殻」という技法。このように、工芸にはモチーフとしての動物だけでなく、貝殻の真珠層を活かした螺鈿、蚕が吐いた糸から成る絹、蜂の巣から採れる蜜蠟は蠟型鋳造の原型というように、素材にも動物の要素が認められます。

「素材にかくれた動物発見」ワークショップを行います！ 詳細は 4P.へ

（上左）広報用図版⑤　二十代堆朱楊成《彫漆硯箱　玄鶴》1944年
（上右）広報用図版⑥　ルネ・ラリック《雄鶏と羽根文花瓶》1928年
（下）広報用図版⑦　松田権六《蒔絵鷺文飾箱》1961年

●鷹と虎

獲物を狩る迫力ある肉食動物の姿は、抽象化されたものから究極の写実まで、工芸の作品の中でも様々な表現が見られます。そこには、強い動物のもつ勇ましさへの恐れや憧れを感じることができます。

作品紹介　爪をくわえた鋭い嘴、ひねった体に沿うように羽一枚一枚が折り重なり、いまにも動き出しそうな迫力ある作品です。明治期を代表する金工家鈴木長吉は実際に鷹を飼い、その姿、しぐさ、羽の模様にいたるまで詳細な観察を行いました。

（左）【参考図版】　稲垣稔次郎《木綿地型絵染壁掛　虎》1960年
（右）広報用図版⑧　鈴木長吉《十二の鷹》（部分）1893年

●魚、虫、まだまだ集合！

広報用図版⑨　ルネ・ラリック
《ブローチ　翼のある風の精》1898年頃

【参考図版】大木秀春《金具　蝙蝠》1918～43年頃

広報用図版⑩　田口義明《蒔絵棗　金魚》2004年

作品紹介　田口義明は「蒔絵」の重要無形文化財保持者である父・善国と並び、螺鈿や蒔絵の技法を用いて動植物をモチーフとした作品を多く手掛ける漆芸家。動植物は時に大胆に、時に精緻に、印象的な色彩で作品に表されます。本作では、透き通るほど薄い尾ひれや、光の加減によって赤から金に見え方が変化するうろこなど、蒔絵により鮮やかに金魚の特徴が表現されています。

田口義明さん、アーティストトーク開催！ 詳細は 4P.へ

開催概要

展覧会名	（日本語）所蔵作品展「動物集合」 （英　語）Animals, Animals, Animals, From the Museum Collection
会期	2017年2月28日（火）～ 2017年5月21日（日）
開館時間	午前10時～午後5時　（入館は閉館30分前まで）
休館日	月曜日（3月20日、27日、4月3日、5月1日は開館）、3月21日（火）
主催	東京国立近代美術館
会場	東京国立近代美術館工芸館
アクセス	東京メトロ東西線「竹橋駅」1ｂ出口　徒歩8分 東京メトロ東西線・半蔵門線 / 都営新宿線「九段下駅」2番出口　徒歩１2分 〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園1-1
観覧料	一般210円（100円）　大学生70円（40円） 高校生以下および18歳未満、65歳以上、「MOMATパスポート」をお持ちの方、友の会、賛助会員、MOMAT支援サークルパートナー企業（同伴者1名まで、シルバー会員は本人のみ）、キャンパスメンバーズ、障害者手帳をお持ちの方とその付添者(1名)は無料。 ＊（ ）内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込。 ＊割引・無料には入館の際、学生証・運転免許証など年齢のわかるもの、会員証、社員証、障害者手帳をご提示ください。 **3月5日（日）4月2日（日）5月7日（日）5月18日（木・国際博物館の日）は無料観覧日**
イベント情報 内容や日程については変更の可能性があります。最新情報はHPでご確認ください。	①アーティストトーク　田口義明氏（漆芸家）　3月5日（日） ②ギャラリートーク　成田暢（当館客員研究員）　4月16日（日） ③タッチ&トーク　会期中毎週水・土曜日 工芸館ガイドスタッフによる鑑賞プログラム。＜さわってみようコーナー＞と会場トークの2部構成で、展覧会の見どころを紹介します。 ※①～③はいずれも、14：00～15：00、申込不要・参加無料（要当日観覧券） ④動物ウォッチ　4月22日（土）、29日（土・祝）　11：00～12：00 自分だけの＜じろじろメガネ＞をつくって、動物ウォッチにでかけよう。 対象：小学生（各回10名、申込制・抽選） ⑤コロコロ羊毛フェルト　4月23日（日）　11：00～12：00 素材にかくれた動物発見、ふわふわの羊毛でフェルトづくりに挑戦します。 対象：小学生のお子さんと保護者の方（10組、申込制・抽選） ※④⑤のお申込み方法は当館HPでご案内しております。
掲載用お問い合わせ先	Tel：03-5777-8600（ハローダイヤル）
公式HP	http://www.momat.go.jp

工芸館

赤レンガが目印の工芸館の建物は1910年（明治43年）に建てられた旧近衛師団司令部庁舎を保存活用したもので、1972年に重要文化財に指定されました。春には隣接する北の丸公園や千鳥ヶ淵の桜が見ごろを迎えます。

広報用図版　請求票

FAX　：03-3211-7783（工芸課）広報担当　行

発信日　　年　　月　　日

☑	No.	作品
	1	「動物集合」展チラシ
	2	大塚茂吉《猫》2005年　東京国立近代美術館蔵
	3	田口善国《漆透かし絵　犬》 1985年　東京国立近代美術館蔵
	4	辻清明《信楽珍獣》 2006年　東京国立近代美術館蔵
	5	二十代堆朱楊成 《彫漆硯箱　玄鶴》 1944年　東京国立近代美術館蔵
	6	ルネ・ラリック 《雄鶏と羽根文花瓶》 1928年　東京国立近代美術館蔵
	7	松田権六《蒔絵鷺文飾箱》 1961年　東京国立近代美術館蔵
	8	鈴木長吉《十二の鷹》（部分）1893年　東京国立近代美術館蔵
	9	ルネ・ラリック《ブローチ　翼のある風の精》 1898年頃　東京国立近代美術館蔵
	10	田口義明《蒔絵棗　金魚》2004年　東京国立近代美術館蔵

・ご希望の図版の左枠内に✔を入れてFAXでお送りください。
・作品図版はJPEGデータをご用意しています。
・展覧会広報のみにご使用ください。著作権保護のため、他の目的でのご使用は固くお断りいたします。
・掲載見本を広報担当者へご寄贈ください。（Webサイトの場合は掲載時にお知らせ下さい）

ご担当者名：　　E-mail：

貴社名：

出版物・放送番組・ウェブサイト名：

URL（http://www　　）

掲載予定号・発行日/放送・公開日時等：

電話番号：　　（　　）　　Fax:　　（　　）

＊展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用招待券をご用意いたします。

希望しない/希望する（　　組　　枚）

〒

チケット送付先：

【報道関係の方からの本資料に関するお問い合わせ先】
東京国立近代美術館工芸館　広報担当／髙橋　TEL:03-3211-7781（工芸課直通）
E-mail: kogei-pr@momat.go.jp　　HP: http://www.momat.go.jp

※工芸館広報のメールアドレスが新しくなりました。